

金山小水力4.8kw発電可能



11月22日流量測定実施

きらきら発電は2019年NPO金山電雪の「ソーラーシェアリング(農地に太陽光発電)」建設に協力しましたが、来年は金山小水力発電所の建設に協力する予定です。山形県最上郡金山町はNPOきらきら発電の理事長水戸部秀利氏(若林クリニック所長)の故郷です。

金山小水力発電は、ソーラーシェアリング建設場所隣家の小沼さんが経営する岩魚養殖場に設置する予定。岩魚養殖用に上流のダムから引いている水をそのまま利用できるため、導水工事がいっさい必要ありません。11月22日流量測定(上記写真)した結果、流量は0.044 m³/sで、4.8kwの小水力発電が可能と判断されました。小水力の売電単価は34円/kwh、年間発電予測が37,843kwhで、年間売上予測が128万円となります。現在水利権活用の事前了承取り付けのため、金山町役場に打診中です。また山形県の補助金も調査中。

一関市照井・荻野小水力発電見学



ラセン状水車で8~13kw発電

12月7日(土)一関市照井土地改良区建設のらせん状小水力発電所を水戸部・広幡・佐藤の3名で見学してきました。農業用水路に設置されたらせん状水車が力強く回転し、この日は8kw/hを発電中。少々のゴミなんか苦にせず回転する水車は、地域住民のエネルギーの源。照井土地改良区では、照井・荻野・八幡沢の3つの小水力発電を稼働させ、あわせて47~83kw/hの発電能力を備えています。能力が一定でないのは、灌漑期と非灌漑期で、水量が異なるためです。荻野発電所は赤荻小学校の裏側にあり、小学生の学習の場にもなっています。



きらきら発電市民共同発電所ニュース

2020年1月号

通算60号

〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

電話・FAX

022(379)3777

太陽光パネル100%リサイクル時代



廃ガラスリサイクル事業協見学

きらきら発電は12月7日(土)岩手県奥州市水沢にある廃ガラスリサイクル事業者(株)環境保全サービスを見学。太陽光パネルを粉砕し、ガラス粒をグラスファイバーなどの素材に、発電セル・バックシートは銀回収用に精錬所へ、アルミ・電極は有価物にと、100%リサイクルしていました。

台風15号や19号によって、茨城県の湖水設置の太陽光パネルが火災事故を起こしたり、阿武隈川岸边に自治体が設置した太陽光パネルが水没、丘陵地帯に設置した太陽光が地滑りで破壊など、今年は自然災害による太陽光パネルの被害が急増しました。そこできらきら発電は自分たちも同じような災害に遭遇した時、使用できなくなったパネルを再処理してもらえるリサイクル事業者を探し、大和町プロジェクトウサミさんの紹介で、太陽光パネル1枚3千円で処理してくれる会社、(株)環境保全サービスの見学となりました。東北ではほかにも、青森県十和田市・福島県などに5カ所の業者が稼働しているとのこと。現在1日240枚の処理能力だが、近々バージョンアップし1日480枚の処理が可能になるとの話でした。

対応した狩野社長(83歳)は、凛とした姿で私たちに語ってくれました。

「ガラスの破砕物は道路舗装材・土木用埋め戻し材・ガラスファイバー原料など、引く手あまたです。しかも銀の回収ができます。私たちはこのガラス材リサイクル事業を周辺環境を破壊することのないよう、熱も水も使わない方法で実施しています。そして全国各地にこの手法を紹介し、仲間を増やし、事業協を作って、みんなで前進することに力を注いでいます。」

動く機械を見学させてもらったなら、精米機を大きくした機械という印象。ガラス破砕が精米部分で、粉じん散らしがぬか粉散らし、色選別(黒い物を除去)もあり、精米工程とそっくりでした。

2020年自然エネルギー見学会5月30日～31日実施

一関小水力～湯沢地熱～金山雪室～鳴子森林事業

毎年11月初旬に実施していた「自然エネルギー見学会」を、来年は5月に実施することにしました。予定は5月30日～31日。コースは栗駒山周辺とし、今回ニュースで紹介の「奥州市



水沢の廃ガラスリサイクル事業協」「一関市照井土地改良区の荻野小水力発電所」のほか、「湯沢市山葵沢の地熱発電所」「山形県最上郡金山町の雪室・ソーラーシェアリング・小水力発電予定地」「新庄市もがみバイオマス発電所」「鳴子温泉エコラの森」を見学先候補地としてあげています。宿泊はシェーネスハイム金山の予定。(写真は2016年山形県月山山麓の宿泊施設前での撮影)